

月高だより

北海道札幌月寒高等学校
第 61号
令和8年8月28日発行
発行者 校長 黒島 敏

■痛い夏休みでした

夏休みが明けて、昨日でちょうど1週間となりましたが、すっかり秋めいてきました。まだ暑い日も続くとは思いますが、空の高さや、日の暮れる時間が早くなるのを感じると「夏も終わりだな～」と思います。私自身は今年の夏休み、带状疱疹に感染してしまい、神経痛と闘う毎日でした。というか、今でもまだ痛いです。80歳までには3人に1人が感染するといわれているそうですが、かかってしまったらとにかく早く治療することが大事のようです。私の場合、腰の痛みからスタートしたので、座骨神経痛かと思ってしまい、治療が遅れました。癒えるまでまだしばらくかかりそうです。ちなみに高校生でも感染します。「なんか痛い発疹が出た」「変だ」と思ったらすぐに病院に行きましょう。

それにしても「健全な精神は健全な肉体に宿る」とか言いますが、（誤訳であるとか、そんな意味ではないとか諸説あり）今年の夏は仕事以外の時間は、何をするでもなくゴロゴロしてじっと静養に充てる日々でした。痛いご飯もおいしくないし、寝ても神経痛で目が覚めるから寝不足だし、健康第一だと改めて感じた次第。

■そんな中でも。。。.

そんな中でも、夏休み中に嬉しいニュースがいくつかありました。秋田県で行われた全国大会で将棋部が女子団体が全国3位！、ダンス部が全国大会出場決定！、吹奏楽部が13年ぶりに全道へ！などです。吹奏楽については朝日新聞のなかにも取り上げられていて、OBの方から寄付の申し出を頂きました。ありがとうございました。

新人戦シーズンまだまだ中ですが、陸上部を始めとしてぼちぼち色々な部活の活躍情報が入ってきます。1・2年生は定期テストもあって大変ですが、ヤルしかないですね。ところで、この記事を書いているとき陸上部の皆さんが大会報告に来てくれました。全道大会は函館だそうです。函館と言えばイカ！は高いので、ラッピでも食べてきてください。ちなみにお盆に墓参りで函館に行ったのですが、通りがかったラッキービエロ峠下店は恐ろしい行列でした。チャイニーズチキンバーガーが有名ですが、私はカレーが好きで、持ち帰りで食べたりもしてます。教員時代、函館へ大会の生徒引率をしたときに、自分が大好きなチャイニーズチキンカレーを生徒に差し入れたことがありますが、ある男子生徒が「辛くて食べられない・・・」と残しているのを見てショックを受けました。（その他は女子部員も含め「おいしい！」と完食してました）「普段“カレーの王子様”とか食べてるのか・・・」と思いましたが、多様性の時代です。食べられないものを無理して食べることはないですね。でもラッピのカレーそんなに辛いじゃないよ・・・。

■設置率99%

今年の夏は昨年よりも涼しく、比較的過ごしやすかったように思います。それでも、少しでも快適に生徒に学習してもらうため、あるいは熱中症患者を出さないように、先生方は様々な工夫をしています。例えば教室の簡易クーラーを前日から電源をいれて涼しくしておいたり、教室のドアの開きばなしを戒める張り紙が各教室にしてあったり、スポットクーラーの台数も増やしたりしています。

それなのに、先日読んだ『内外教育』（教育雑誌 8/4号）を読むと、有識者の意見として、「公立学校の普通教室のエアコン設置率が99%なのだから、授業週数を年間35週でなくて38週にしろ」とか書いてあって、びっくりしました。この発言の根拠となる数字は文部科学省の7月30日公表のデータによっていますが、簡易クーラーを含めての数字であり、簡易クーラーの効き目の悪さとかは普段涼しいオフィスにいる偉い人にはわからないことだろうと思います。しかも月高をはじめとする多くの進学校は夏休みの講習を1～2週間行っているところも多くあり、夏休みだからと遊んでいる訳でもありません。

現場をよく知らない人間が、数字だけを見て意見を述べることの怖さをちょっと感じました。多くの官僚を輩出する東大の学生の出身地が首都圏に多いということですが、人口減少や少子化に悩む地方の実態を知らないまま政策をたてられても・・・とは思います。

同じように、札幌の人は「札幌が北海道の全て」みたいに思っているフシを感じる人が多いので、皆さんも北海道の地方の実態にもっと目を向けることも大事だと思います。

■あとがき

夏休み中に出席したある会で、他校の教頭先生から「最近美容整形をする生徒が増えてきて、もちろん親も了承している。このような場合どう指導すれば良いのか？」という相談を受けました。その時は、「親が了解してるんならしょうがないのでは・・・」と答えましたが、私自身は美容整形にはそんなに否定的ではありません。インターネットを閲覧していると、私の年齢で判断しているのか「しわ・シミ取りクリーム」の広告がやたらと目立ちます。しわやシミなんてクリームやゲルマニウムローラー（懐かしい）でなくなるわけだし、本人がコンプレックスに感じ、どうしても気になるなら手術するのが一番だとは思いますが。

ただ、低年齢化が進んでいるというのが気になる場所。度々紹介しますが『内外教育』8/25号によると、ある美容整形外科では19歳以下の患者の占める割合が2017年では7.2%だったのが、25年には2.6倍の18.8%、二重の整形手術は中学生にも浸透し、「近年中3の割合が増えて、夏休みや高校進学前に相談が集中する」とのこと。高校デビューということでしょうか。漫画家のグラハム子さんは、中3の春休みに母親の提案で最初の手術を受け、その時は「一重まぶたは悪いという母の価値観をすり込まれ自分の感情がわからなかった」と振り返り、大学3年に3回目の手術を受けようとしたとき「抑えていた感情があふれ、手術台の上で、大泣きした」ため、手術は見送られたとのこと。

現在2児の母であるグラハム子さんは、「美しくあるべきという社会の暗黙の圧力は確かにある。将来子どもが整形を望んでも反対はしないが、なるべく多くの価値観を示すつもり」と話しています。

私の意見としては自我がきちんと確立していない時期に、取り返しの付かないことをすることはやめた方がよいと思います。二重とかなら・・・とも思いますが、「顎の骨を削る」とかは親も止めるべきでしょう。私が髪を切っている理容師さんは腕にタトゥーを入れてますが「高校生が入りたいと言ったらどんなアドバイスを？」と聞いたら、「自分なら分別のない高校生のうちは絶対やめた方がいいって言うっす」と言っていました。高校生の頃の自分はアホだったとも。